

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390102525		
法人名	株式会社PLUNURSE		
事業所名	グループホーム Cruto		
所在地	熊本県熊本市南区城南町東阿高字一ノ尾1279-1		
自己評価作成日	令和2年 2月 25日	評価結果市町村報告日	令和2年 5月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年3月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>365日24時間体制で看護師在駐し、医療面では他施設に比べ重度の方、看取りの方まで対応できます。 季節の行事や地域との交流を今後増やしていき新たな施設作りに日々努力を重ねています。 一人一人を尊重し、笑顔ある楽しいアットホームを目指しています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>訪問看護事業を主とする法人では「クルトが楽しみ」と入居者の笑顔を思わせる大きな理念があり、事業所では「アットホーム」で「入居者と共に」の思いのもと、24時間看護師在駐の医療面でも安心して過ごせる環境です。2ユニット18名の入居者状況も様々であることから個々への対応も異なる様子が窺えましたが、これまでの趣味の継続や、配慮すべきところもそれぞれに対応し、穏やかな生活が送れるような支援がなされています。訪問時には事業所のこれからの思いや今後取組んでいきたいこと等、法人・事業所の思いを窺うことが出来ました。地域密着の事業所として今後の姿が期待できる施設でした。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	遠方の方へ電話をし、関係良好。答えられるよう努力している。	法人理念を基に、開設時に職員で話し合い事業所の理念を策定した。理念には「アットホーム」「利用者と共に」の気持ちを込めている。事業所内各所への掲示及び唱和を行うことにより職員で共有している。	訪問時、大きな思いを持つ法人・事業所理念のもとケアを行っている様子が窺えました。グループホームであることを念頭に、職員間で理念の持つ意味を共有されることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	案は出ていたが、実行できていないため今後の課題。	開設初年度であり今後の課題と捉えている。近隣店舗での買い物、地域での初詣、かかりつけ医の受診等、事業所・入居者共に日々の生活を通じて地域への関わりを構築しているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着できていない。今後の課題。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・実際の活動計画や事故報告書等、又今後のイベント等行事の告知等行っている。 ・運営推進会議でパワーポイントを使用し質疑応答の時間を持っている。	隔月開催の会議には、地域区長、地域包括支援センター、入居者家族の参加がある。運営者も参加することにより、会議で得られた意見は必要により検討され、サービスの向上に活かしている。	開設間もないこともあり、地域との関係作りに取組まれている様子が聞かれました。運営推進会議を利用した地域と連携に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区長・ささえりあ城南・家族を招き、2か月に1回の運営推進会議で報告を行えている。	基本的に地域包括支援センターとの連携が大きなものである。運営推進会議を機会に事業所の日頃の様子を積極的に伝えている。また日頃の報告・相談・連絡等により協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安心・安全の為セキュリティを設けている。外に出たい利用者、希望があればいつでも出れる環境を設けている。	「身体拘束防止マニュアル」をに則り、新人研修プログラム及び年2回以上の職員教育を行っている。身体的拘束廃止をきっかけに「よりよいケア」の実現を目指すとし、安易に「やむを得ない」身体拘束を行わないとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力あり、言葉による抑制時折あり、スタッフ間で注意しあえる環境を作る。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できていないため、今後機会を設ける		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時連絡できている。質疑応答を随時行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できていないため、今後機会を設ける 口答であり、その都度対応している。	家族等面会の際は職員からも声を掛け、意見・要望を聞く機会を持ち、必要がある場合は都度対応している。運営推進会議へも家族の参加があるため、意見を求める機会にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日ミーティングを実施。 必要時は面談等、個人的ケアに取り組んでいる。	職員は日常業務の中で管理者へ意見を出す機会 の他、事業所全体での週1回のミーティングにおいて意見を述べる機会を持っている。法人全体では毎月管理者会議を行い事業所での報告を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	初年度方賞与を年2回支給。又、タブレットの導入にて記録を簡素化し、時間外勤務の軽減。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3号吸引研修やヘルパー、重度訪問介護の資格を取得。新地商の研修参加等全て会社負担にて実施。インシデント・アクシデントに対して、グループ内看護師からの勉強会実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設へ出向き同業者とし挨拶回り後、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される際には、御家族の意向、本人の意思を聞き取りスタッフ間で共有し、スタッフ全員で関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行う時点で家族が困っている事、不安なこと等を吸い上げスタッフ間でも周知し、対策等を検討し、御家族へ対応の仕方等を報告し、共有することに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行う時点で密に話し合い、情報を得て、担当スタッフと対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告や体調等家族に説明し、家族と共に共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等面会あり。	入居者面会には家族だけでなく、友人の来訪も歓迎している。かかりつけ医も以前からの医療機関を継続して受診支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の生活スタイルを把握しており、個々にあった席や空間を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・努めようと努力している。 ・ケアプラン作成時確認している。 ・買い物に付き合っている。	入居者の思いは日々の関わりの中で把握している。入居時や入居後の生活の様子を把握することで、趣味も活かした生活に取り組んでいる。地域スーパーの移動販売も定期的な来訪を依頼し、入居者にも希望の買い物を楽しんでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ間で担当者を決めており担当者は生活歴や生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めている。 本人の状況に合わせて生活スタイル、ケアに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者と計画作成者が密な話し合いをし介護計画書に反映、個々のケアに努めている。	毎週カンファレンスを行っており、入居者の状況に変化が見られる際は随時話し合いを行っている。モニタリングは入居者の担当職員と計画作成者で行う。基本的に半年毎に見直しを行っている。担当者会議には出来るだけ家族の参加を促し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき等、記録を行っている。状態変化、気づいたことに関しては申し送りを行い共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応できている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大きなイベント時には外部からグループを招き開催。近所のスーパーから訪問販売を利用したり、ショッピングモールへ行き、ショッピングを実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内部疾患、皮膚疾患、歯科など必要に応じた家族へ提示し希望がえられる場合その医療機関を優先している。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。通院は家族と協力しながら職員での通院介助にも対応する。職員が通院介助を行った際には家族への報告を必ず行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オムツ交換時や入浴介助を行うにあたり、全身のスキンチェックを行い、異常があれば報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域密着型なので地元の病院と連携を組み密な連絡・相談を行っている。指定の病院がある場合は継続している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は対象の入居者がいないが、入居契約時に意思確認を取るようになっている。又、グループである訪看Crutoと医療連携体制を整えている。	開設初年度であるため事例は無いが、看取りまでの支援を行うこととしている。法人では「住み慣れた環境で」を思いとしていることから、訪問看護や医療連携の体制で支援に取り組む体制を持つ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪看Crutoの看護師による急変時の対応のやり方について勉強会実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害備品や発電機の確保、避難訓練の実施、災害担当を決めている。	年2回の避難訓練を行っている。今年度は、職員の訓練を主とし、避難経路の確認等を行った。実施後は反省会を行い、意見を出し合うことで災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いの配慮が足りないときがある。	入居者対応の際の言葉かけ・言葉遣いが気になる場面が見られた事例もあり、都度注意しながら対応を行ってきた。入浴の際の言葉掛け等には特に配慮し、入居者の尊厳を損なわないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴、本人の訴えを聞いて行動に移している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臨機応変に対応している。その時によりケアを柔軟に変え、本人に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・希望に沿って洋服を選んでもらっている。 (化粧等)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好きな食べ物の提供を行っている。	職員による手作りの食事を提供している。入居者からの希望でファストフードを提供し喜ばれたこともある。季節毎の食事作り、食材の取入れを心掛けている。出来るだけではあるが、入居者の手伝い等、関わりを持てるような支援も取入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった、水分摂取ができるようトロミ等を利用し、できるだけ多くの水分摂取に努めている。(お茶や紅茶時にジュース等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否以外はできている。 歯科往診があり、助言等をいただいている。		

グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導している。排泄できていない利用者が把握できるようチャック表を用いて全スタッフがみてもわかるようにしている。	昼間は介護度の状況によりオムツ使用もあるが、出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間はトイレでの排泄を支援しているが、ゆっくり休んで頂くことも大切にしており、オムツ使用の例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、内服等で排便コントロールしている、食前に口腔体操を含む、体操を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めてあるが、本人の意見を聞き入れココに合わせている。	最低週2回以上、希望により午前・午後とも利用できる。無理強いせず、納得の上で入浴出来るよう声掛けには特に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の訴えがあれば臥床してもらう。 ・めりはりをつける努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	可能な範囲で努めており、副作用の出現に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時間が許せば買い物や外出、園芸に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればコンサート外出など個々の合わせて行っている。	事業所には中庭があり、毎日の散歩や日光浴には自由に利用できる。計画による外出も行われており、温泉館での足湯利用や季節の花見学、買い物等に出掛けている。個別の希望があれば、出来るだけ対応している。	



グループホームCruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事、外出時、希望時購入している。金銭管理はこちらで行っている。今後実施し心がけてみる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境調整に努めている。 季節毎に飾り付け等気がけている。	車椅子利用や歩行の妨げにならないよう、毎朝皆で環境を整えている。リビングの一角ではテレビを楽しむ入居者の姿もあり、時にはカラオケで楽しむ様子も見られる。毎日換気の時間も設けている。廊下には歩行訓練を意識付けるために距離を表示する等の工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。できている。トラブル防止に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々、使いやすいように工夫している。配置を使いやすいように設置している。 ・出来るだけの持ち込みの許可を得ている。	洗面台・ベッドが備えられた居室では、入居者の生活状況によりテレビやタンス等が持ち込まれている。趣味を楽しむ様子もあり、絵や彫刻等、作品が飾られた居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・車椅子自走できる建物構造になっている。 ・手すり設置、トイレ、入浴、バリアフリーにしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームCruto

令和 2年 5月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域の付き合い	施設の名前を覚えてもらう	地域のお店を継続して活用していく。イベントを計画し地域の方に声掛け参加をしていただく。	1年
1	2	同上	地域とのつながりを大切にしていく。	こちらからも地域に貢献するため清掃活動や地域のイベントに進んで参加する	1年
2	50	お金の所持や使うことの支援	買い物をする楽しみの機会を計画する。	買い物をする楽しみの機会を計画する。	6か月
3	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	ご家族へ3か月、6か月と確認していく。(体調変化時はその都度確認)	入居時に確認した事前意志確認書を再度確認する。	3か月
3	33	同上	スタッフ全員が急変時、看とり対応が出来る。	訪問看護と協力し看取り研修、急変時の研修を実施していく。(実技含む)	1年
5	4	運営推進会議を活かした取り組み	施設の活動報告、入居者の近況報告を具体的に伝える。	運営推進会議での報告。来設出来なかったご家族には運営推進会議資料を郵送する。	今月中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

